

【ファーストステップFX】

Part2 トレーダーとしての

レベルアップの為に

第1章

基本的なFXの知識

株式会社チャートマスター

■はじめに

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリック出来ます。出来ない場合は最新の AdobeReader をダウンロードして下さい。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものである為、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部を如何なる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

著作権等違反の行為を行なった時、その他不法行為に該当する行為を行なった時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行なう等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行なう場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行なう権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等が有りましたが、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

このレポートを利用する事により生じた如何なる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

目次

※目次の見出しをクリックすると、その見出しのページに移動します。

- 「P a r t 2 トレーダーとしてのレベルアップの為に」の目次.....
- 基本的なFXの知識.....
- v o l . 1 為替について.....
- v o l . 2 レバレッジについて.....
- v o l . 3 取引コストについて.....
- v o l . 4 スワップについて.....
- v o l . 5 円高時・円安時の取引.....
- v o l . 6 ロスカットシステムについて.....
- v o l . 7 取引のたまかな流れ.....
- v o l . 8 相場の動く要因について.....
- v o l . 9 ファンダメンタル分析.....
- v o l . 10 テクニカル分析.....

■ 「Part2 トレーダーとしてのレベルアップの為に」の目次

Part1 では、稼げるトレーダーになる為に必要な大まかな流れを説明しました。

この「Part2 トレーダーとしてのレベルアップの為に」では、多くの方が知りたいと考えている下記の項目について説明して行きます。

第1章	基本的なFXの知識
第2章	注文方法
第3章	マインド
第4章	ファンダメンタルズ分析
第5章	テクニカル分析
第6章	ポジションサイジング
第7章	チャートパターン
第8章	システム構築編

それでは先ず、基本的な知識を深めて行きましょう。

■ 基本的なFXの知識

基本的な事を説明しようと思います。

私達は投資顧問会社として、投資家育成をミッションとして、初級～中級～上級の方、全ての方に対応しています。

但し、あまりにも基礎的な知識がない方は、初級のレベルともみなす事が出来ません。最低限のFX用語、最低限のFXの知識が持っていて頂かないと私達の言っている事が分からないと思います。

基礎的な知識の説明は、私達がするよりももっと説明が上手く、分かり易く説明してくれる人達があります。

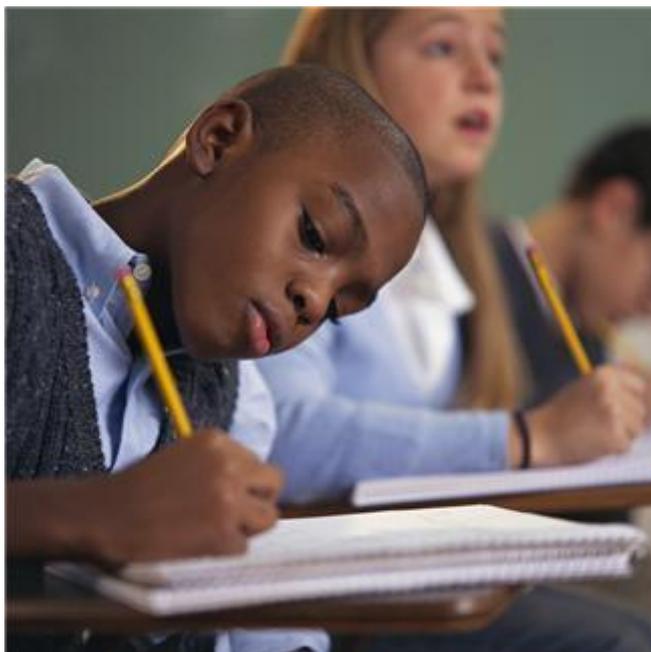
それはFX会社です。

FX会社には動画などがあります。基本の基本になりますので、先ずそちらの内容を最低限、身に付けて下さい。何度も観る事で、知らない単語、知らない知識に慣れて来ます。「よし分かった！」と自分で納得出来るまで、繰り返し観て下さい。

あなたには早く次のステップに進んで欲しいと思います。

「どういったトレードをするべきか」、「相場分析はどのようなものか」等、プロと同じ考え方、相場分析の方法、システムを構築するに当たって、基礎的な知識は絶対に欠かす事は出来ません。

下にどういった内容が書かれているのかをこちらでまとめましたので、要約の内容を見て、「全部、分かった」と言えるくらい繰り返し観てみて下さい。



[▲目次へ戻る▲](#)

■ vol. 1. 1 為替について

●そもそも外国為替とは何か？

「外国為替」とは、例えば、海外旅行に行く際に行なう「両替」と同様の事を指します。異なる2つの通貨を交換する事を外国為替と言います。

●為替の取引における円高・円安とは？

為替の取引における「円安」とは、例えば、1ドル=115円が1ドル=120円になると、5円高い120円を出さないと1ドルと交換出来ない、つまり、円の価値が下がったという事、これを円安と言います。

為替の取引における「円高」とは、例えば、1ドル=115円が1ドル=110円になると、5円安い110円を出すだけで1ドルと交換出来る、つまり、円の価値が上がったという事、これを円高と言います。

●レートはどのように表示されるのか？

1つのレートには、「Bid」と「Ask」という2つの表示があります。

Bidとは、例えば、ドルを持っていて円が欲しい時、ドルを売る時のレート、売値の事です。仮に、Bidのレートが1ドル=95.44円の時、100ドルを売ると、9,544円、受け取る事が出来ます。

Askとは、例えば、円を持っていてドルが欲しい時、ドルを買う時のレート、買値の事です。仮に、Askのレートが1ドル=95.45円の時、9,545円払えば、100ドルを買う事が出来ます。

このように、1ドル〇〇円から〇〇円というのは、売値と買値を表しています。

●レートはどうやって、どこが決めるのか？

金融機関同士で買いたい人、売りたい人が電話やインターネットを通じて連絡を取り合い、取引（交換）を行なっている場所を「外国為替市場（インターバンク市場）」と言います。

先ず、インターバンク市場において、各通貨ペアのレートが取引されます。

次に、FX会社等（対顧客市場）がインターバンク市場からレートを仕入れます。一般投資家は、FX会社が提示するレートに基づいて取引を行なう事になります。

●為替会社とはどのように取引するのか？

株の場合、元締めである証券取引所が定めたルールに基づいての取引となります。その為、証券会社ごとの株の値段は同一となります。これを「取引所取引」と言います。

対して、「外国為替証拠金取引（FX）」の場合、各「為替会社（FX会社）」と一般投資家が1対1で取引を行いません。その為、1ドルの値段は、各為替会社によって異なります。つまり、企業努力によって、値段が変化する、という訳です。これを「相対（あいたい）取引」と言います。

このように、外国為替は相対取引、株は取引所取引となります。

[▲目次へ戻る▲](#)

■ v o l . 2 レバレッジについて

●購入に必要な資金は？

購入について、外貨預金とFXを比較すると…。外貨預金の場合、1ドル=100円の時、1万ドルの取引に100万円が必要です。

FXの場合、一定額を証拠金として預ける事で、約1倍～200倍の取引が可能となります。この倍率の事を「レバレッジ（テコの原理）」と呼びます。

仮に、1ドル=100円でレバレッジ10倍の時、1万ドルの取引が10万円で行なう事が出来ます。FX会社によって、レバレッジは異なります。

このように、FXの場合、レバレッジを掛ける事により、少額の資金でも高額の資金運用が出来ます。



[▲目次へ戻る▲](#)

■ v o l . 3 取引コストについて

●取引かかるコストはどのくらい？

外貨預金とFXを比較すると…。外貨預金の場合、往復合計 2 円の為替手数料がかかります。

例えば、1 万ドルの取引の場合、往復 2 円×1 万ドル=2 万円の為替手数料がかかります。対して、FXの場合、手数料は、ドル円だと 1 通貨当たり、0.01 円の「スプレッド」のみとなります。

取引手数料は、FX会社によって異なります。例えば、1 万ドルの取引の場合、0.01 円×1 万ドル=100 円のコストがかかるのみです。

他の外貨商品に比べ、FXはコスト（手数料、スプレッド）が安いと言えます。

[▲目次へ戻る▲](#)

■ v o l . 4 スワップについて

●金利が毎日受け取れる？

外貨預金の場合は、満期日に迎えないと金利が受け取れません。

FXの場合は、金利差調整分（「スワップポイント」）を毎日、受け取る事が出来ます。各国の金利は、それぞれの国の政策で決められていますが、金利の低い通貨で金利の高い通貨を買うと、スワップポイントの受け取りが発生します。

高金利通貨を買う取引で金利調整分であるスワップポイントを日々、受け取る事が出来ます。

反対に、金利の高い通貨で金利の低い通貨を買うと、スワップポイントの支払いが発生します。高金利通貨を売る取引だと、金利調整分であるスワップポイントを日々、支払う事になります。

スワップポイントは、保有ポジションが「ロールオーバー」され、ニューヨーククローズをまたぐごとに付与されます。

実際の入金は、夏時間、冬時間共に取引オープン時間に入金となります。

※スワップについては、FX会社によって取り扱いが異なります。

ご利用のFX会社のホームページ等で確認して下さい。



[▲目次へ戻る▲](#)

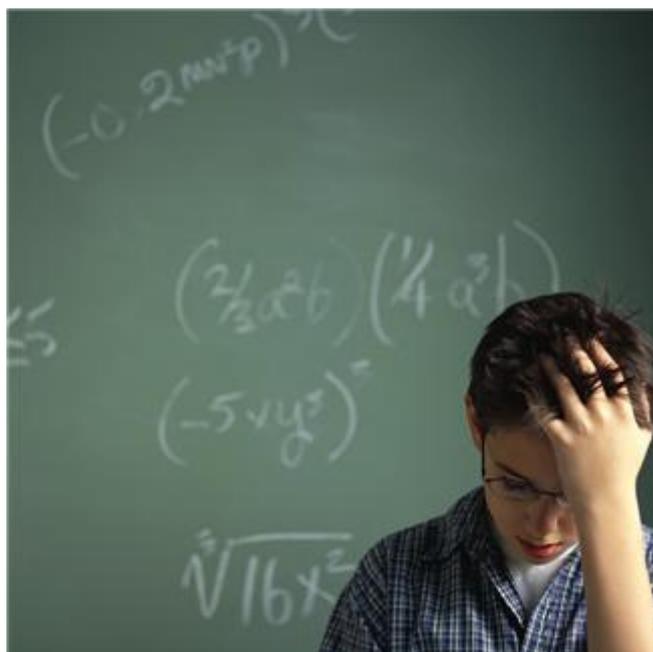
■ v o l . 5 円高時・円安時の取引

●円高でも為替差益が発生する？

例えば、買った米ドル（外貨）を円安時に売り戻す事で、為替差益を出す事が出来ます。

また、米ドル（外貨）を売る取引を行ない、円高時に米ドル（外貨）を買い戻す事で為替差益を出す事も可能です。FXの場合、取引証拠金を預ける事で、外貨を売る権利を貰える為、外貨を売る取引から始める事が可能となるのです。

外貨預金の場合は、外貨を買う（＝円を売る）取引の為、円安にならないと為替差益を出せませんが、FXの場合は、円高でも為替差益を出す事が可能です。



[▲目次へ戻る▲](#)

■ v o l . 6 ロスカットシステムについて

●お客様の資産を守る、ロスカットシステムとは何か？

例えば、資産 10 万円を入金し、レバレッジ 10 倍コースで 1 万米ドルを購入する場合（＝取引証拠金 10 万円）、資産（有効証拠金）が取引証拠金の 20%（＝2 万円）を下回る、つまり、8 万円以上の損が出たら、「ロスカット」が執行され、全てのポジションが自動的に一括で決済されるようになっています。

但し、急激な相場変動等によっては、20%の資産を残す事が出来ず、更に投資した資金（預託した証拠金の金額を含みます。）を越える損失の拡大を被る恐れもあります。

強制的なロスカットよりも、早めの損切りをお勧めしています。その損切りの目安として、ロスカットアラートというシステムがあります。

例えば、資産 10 万円を入金し、レバレッジ 10 倍コースで 1 万米ドルを購入する場合（＝取引証拠金 10 万円）、資産（有効証拠金）が取引証拠金の 50%（＝5 万円）を下回る、つまり、5 万円以上の損が出たら、ロスカットアラートが発動し、メールが送られます。

このように、取引の損失拡大をロスカットでコントロールし、資産を守る事が出来ます。

※ロスカットシステムについては、FX会社によって取り扱いが異なります。ご利用のFX会社のホームページ等で確認して下さい。

[▲目次へ戻る▲](#)

■ v o l . 7 取引の大まかな流れ

● 実際の取引の大まかな流れを見てみましょう

- ・STEP1 : 先ずは、外貨を購入します。
- ・STEP2 : 購入した外貨に対して、どのくらい利益が出ているかをチェックします。
- ・STEP3 : 金利差に応じて、スワップポイントの受け取り、支払いが毎日、発生します。
- ・STEP4 : 決済をする場合は、購入した外貨を反対売買によって取引を終了します。

[▲目次へ戻る▲](#)

■ v o l . 8 相場の動く要因について

● 為替レートはなぜ動くのか？

例えば、現在のレートが1ドル=100円だったとします。その後、ドルを買いたい人が多い場合、ドルの人気が高くなり、値上がりします。このように、ドルの人気が高くなると、ドルが値上がりする為、円安ドル高という相場変動が起きます。

逆に、現在のレートが1ドル=100円で、ドルを買いたい人が少ない場合、ドルの人気が低くなり、値下がりします。このように、ドルの人気が低くなると、ドルが値下がりする為、円高ドル安という相場変動が起きます。

外国為替も通常の商売と一緒に、通貨の人気が出れば、その通貨の価値が上がり、人気が無くなれば、その通貨の価値は下がります。つまり、価値の上下によって、為替レートは動くのです。

●通貨の人気を上下させる要因は？

通貨の人気を上下させる要因には、大きく分けて7つあります。

1. 経済成長性（GDPの伸び率）
2. 国家財政の健全性（税収と歳出のバランス状況）
3. 経常収支（モノ・サービスの移転に伴う収支）
4. 金利（国債等の表面上の金利）
5. 政府の市場介入
6. 有事（戦争や地域紛争、災害等）
7. 要人のコメント（政府関係者、経済界の重要人物等）

※1.～4.は、新聞やニュースで定期的にウォッチ出来る要因と言えます。

※5.～7.は、予測しづらい突発的な要因と言えます。



[▲目次へ戻る▲](#)

■ v o l . 9 ファンダメンタル分析

●為替レートの動きの分析には大きく2つの方法があります

為替相場の分析方法は大きく分けて2つあります。「テクニカル分析」と「ファンダメンタル分析」です。

ファンダメンタル分析とは、国内外の景気や企業の業績・財務体質等を予想し、将来の価格の方向性を予測する方法です。簡単に言うと、経済統計や内外の金利等、多くの為替の変動要因を分析するものです。

国が発表する様々な情報を読み込んで分析する方法と言えます。

●市場を判断する上で重要な指標とは？

1. GDP

国内総生産の事で、ある国において一定期間に産み出された財・サービスの付加価値の市場価格での総額を指します。

経済全般の動きを見るには最適の統計ですが、その項目は、国によって様々です。大半の国は四半期ごとに集計され、市場では主に、前期比、もしくは、前期比年率が注目されています。

2. 米雇用統計

米国は建国以来、「完全雇用」を国是としている為、雇用状況を示す数値は、金融政策に大きな影響を及ぼす指標として、為替市場では重要視されています。

特に重要視されているのが、全労働者人口を対象とした「失業率」と「非農業部門雇用者数」の2つであり、後者は雇用実勢が分かりにくい農業部門を除く事で、米産業の雇用動向を明確に把握出来るとして注目されています。

発表スケジュールは、通常、日本時間の毎月第1金曜日を予定しています。

3. FOMCの政策金利発表

FOMCとは、米国の金融政策の運営討議や決定をしたり、政策金利を決定する為の会合の事で、FOMC開催2週間前に発表される地区連銀景況報告（ページュ

ブック) に基づいて議論されます。

FOMC から発表される政策金利は勿論の事、議事録や声明文等の発表も、金融当局がインフレ動向や景況感に対して、どのような印象を持っているか等を推測する事が出来る為、非常に重要視されています。

4. 米住宅着工件数

月中に建設された新築住宅戸数を示す統計です。

米国では一戸建てと集合住宅の区別、東部・西部・北東部・中西部と地域別で発表されています。

住宅投資は個人消費との相関性が非常に高い事から、景気動向を見極める上で重要な指標とされています。

●具体的にはどのように分析するのか？

各国が発表している具体的な数値は、経済指標カレンダーより確認する事が出来ます。

前回の数値も勿論、重要ですが、今回の数値がどう予想され、結果がどうなっているのかが特に重要視されている為、予測と結果の項目に注目して分析する事が重要です。

[▲目次へ戻る▲](#)

■ v o l . 1 0 テクニカル分析

●為替レートの動きの分析には大きく2つの方法があります

テクニカル分析とは、チャートを用いて相場を分析し、将来の価格の方向性を予測する方法です。簡単に言うと、過去の値動きのパターンと現在の値動きのパターンを見比べ、値動きの方向性を分析するものです。チャートを用いて、数的に分析する方法と言えます。

●チャートとは？

「チャート」とは、レートの動きを一目で分かるようにグラフ化したものです。

過去の価格や時間、出来高等から将来の価格や相場動向を予測・分析する為の「テクニカル指標」というものがあります。

「ローソク足」とは、高値と安値を結んだ線と始値と終値を組み合わせたグラフの事です。終値が始値を下回った場合、「陰線」が表示されます。逆に、終値が始値を上回った場合には、「陽線」が表示されます。

選択したローソク足の期間中に、始値、終値を超える値段があった場合には、上下に細い線＝「ヒゲ」が現れます。

●数多く存在するテクニカル分析法より、代表的な3つの分析法を紹介します

1. 移動平均線

「移動平均線」とは、一定の期間の平均値をラインとして描画したものです。

ローソク足等の現レートを表示しているチャートに重ねて表示して用います。短期線、中期線、長期線といった形で複数の期間の平均値を重ねる事で、相場全体の流れを見る事も可能です。

相場へのエントリーや利益確定のタイミングを移動平均線を基準として判断する人も多い為、一方向に動いているレートの転換点となり易いです。最も基本的な指標の一つと言えます。

相場の大きな流れを掴むのに適しているテクニカル指標とされています。

2. ボリンジャーバンド

「ボリンジャーバンド」とは、1980年代前半にジョン・ボリンジャー博士が考案した統計学を用いたテクニカル指標です。

移動平均線を基に、一定の偏差を掛け合わせて±第1標準偏差・±第2標準偏差といった線を引き、レートの移動する範囲を予測する為に用います。

内側の2本の線（±第1標準偏差）の間にレートが存在する確率は、68.3%、外側の2本の線（±第2標準偏差）の間にレートが存在する確率は、95.5%、といった統計を利用し、レートの反転ポイントや方向性を掴む為に有用な指標と言えます。

統計学の概念を用いた、相場の変動率を予測するテクニカル指標とされています。

3. ストキャスティクス

「ストキャスティクス」は、相場の過熱感（売られ過ぎ・買われ過ぎ）を数値化して見る手法である「オシレーター系」と呼ばれる指標の中で代表的なもの

の一つです。

売りが多いと 0%に近づき、買いが多いと 100%に近づく為、一般的には 20% or 30%を下からまたいだら買いサイン、70% or 80%を上からまたいだら売りサイン、といった形で使われます。

トレンドが発生していない市場では、売り買いの均衡を保ってレートが推移する事が多い為、レンジ相場においては、非常に有用な指標の一つと言えます。

「売られ過ぎ」・「買われ過ぎ」を判断する為の有用なテクニカル指標とされています。



[▲目次へ戻る▲](#)

Part2 トレーダーとしてのレベルアップの為に
第1章 基本的なFXの知識はこの動画で学ぶ
株式会社チャートマスター